

慰霊碑が語ること語らないこと

——日ソ戦争が生み出した樺太住民の故郷喪失

釧路公立大学経済学部准教授 中山 大 将

はじめに

釧路公立大学経済学部の中山大将と申します。今回は「慰霊碑が語ること語らないこと：日ソ戦争が生み出した樺太住民の故郷喪失」と題してお話をさせていただきます。樺太というのは、北海道の北にあるサハリン島の南半分、かつて日本領だったところですが、最大人口が40万人だった土地です。今回のお話は、王先生からご紹介のあった本の第7章に書かれていますので、詳しいことはそちらを読んでいただければと思います。

私の最初の博士号は農学となります。農学と言っても、実験系、観察系ではなく、農業経済学、農業史を専門としていまして、博士論文を基にした『亜寒帯植民地樺太の移民社会形成』という本も京都大学学術出版会さんから出させてもらっています。樺太という日本の北の地域で人々がどんなふう生きていたのかを経済からイデオロギーまでつなげて考えてみた研究になります。資料としては統計資料、政策資料、経済調査資料、メディア資料等を活用して研究してきました。

次に、サハリン残留日本人の研究で北海道大学文学博士号をいただいています。戦前の樺太は日本領だったので日本人が大勢いたのですが、ソ連が侵攻してきて引揚げが起きても残った方々が

いて、その人々についての研究です。外交文書、メディア資料、民間団体、支援団体の資料や引揚者の資料であるとか聞き取り調査、フィールド調査等を行ってきました。

私の研究には一貫しているテーマがあります。『国境は誰のためにある？』という3冊目の本の書名や今日のテーマに「国境」とあるように、国と国との間に挟まれている地域、国境の地域に生きるとはどういうことなのかについて考えてきました。

慰霊碑をなぜ研究するのか？

なぜ「国境」と「慰霊碑」を並べて研究するのか。まず、「慰霊碑」とは何か。「慰霊碑」とは過去に起きた出来事を慰霊したり、それをふまえて平和を祈念したりするための耐久性のある材質で建立された造形物と定義できるかと思います。では、なぜそれを造るのか。慰霊碑は、個人・集団として過去に起きた出来事を受けとめるための「装置」と言えるかと思います。渡辺祥子さんという方がおります。お父様が樺太庁の役人でしたが、シベリアに抑留されて亡くなってしまわれて、その慰霊のためにシベリアに慰霊碑を建てた方です。渡辺さんのご著書の表紙の写真に写っている碑の後ろにはロシア人がおりますが、これは協力してくれた現地の人たちです。国境を越えて加害者側の集団に属する人々と被害者側が協力しながら慰霊碑を建てていく、そうした友好なり、和解なりのプロセスにも「慰霊碑」はなっているかと思います。

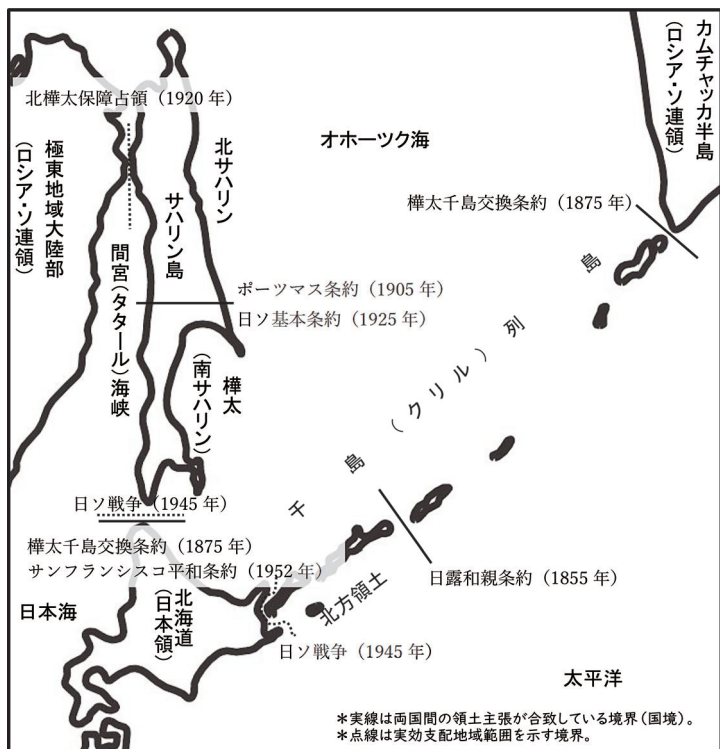
慰霊碑自体が「碑銘」「碑文」を持っており、補足的な解説板などもあったりします。「慰霊碑」の建立目的や建立者、建立時期、建立経緯などが書かれてあるので、そうしたことが解説板も含めた慰霊碑自体からわかるのですが、一方でわからないものもあります。「碑銘」や「碑文」に記されていない歴史や関係性が存在するからです。日本語とロシア語で書かれている碑銘がずれている場合もあったりします。慰霊碑に直接関係ない人々が協力した場合などにそうした事実が消えてしまっていることもあったりします。また「慰霊碑」に対しての解釈や碑文そのものも変化することが起きています。これらの観点から「慰霊碑」について、お話をしていきたいと思います。今回のお話には、日本人、朝鮮人、ロシア人、そして先住民族が関与しています。「故郷」と「境界」について「慰霊碑」から見てみたいと思います。

サハリン島の歴史

サハリン島の歴史については、重要なところだけをお話しておきます。もともとロシア領であったところを日露戦争（1904～05年）で日本がとった歴史がありまして、1945年、第二次世界大戦末期にはソ連が樺太に攻め込んできます。そしてソ連が全島をソ連領と宣言します。この日ソ戦争の間に住民約10万人が逃げ出します。その後、残った日本人、つまりは「残留日本人」、約1,500人を残して、日本人はほぼ全員が引揚げています。同時にソ連人の移住も起きます。日本人残留者は約1,500人、朝鮮人

は2.4万人。もともと朝鮮人は日本国籍者だったので「日本国民」だったわけですが、戦後は朝鮮半島の独立が決定していたことから日本国籍者扱いされなかったため日本を經由して朝鮮半島の故郷に帰るという道が断たれることになります。1965年、樺太墓参が実現します。それまでは日本人は立ち入れませんでした。その

図 サハリン島周辺の境界変動



出典：筆者作成。

表 1 北海道・千島・サハリン（樺太）簡易年表

年	事項	サハリン		千島					
		南	北	南	北				
1219	【道】安東氏が蝦夷管領に命じられる（遅くとも 1224 年）。	—		—					
1264	【サ】モンゴル帝国・服属した先住民が北サハリンでアイヌと武力衝突								
1456	【道】道南でアイヌの対和人蜂起（コシャマインの戦い）。								
1604	【道】松前（旧・蠣崎）慶広が江戸幕府により松前藩主として安堵。								
1635	【サ】松前藩士がサハリン南端に上陸								
1644	【千】『正保御国絵図』（日本）に千島が描かれる。								
1669	【道】道東・道北・道央でアイヌの対和人蜂起（シャクシャインの戦い）。								
1711	【千】ロシア人が初めて占守・幌筈へ。								
1717	【サ】『皇典全覧図』（清）にアムール川河口沖合の島（サハリン）が描かれる。								
1785	【千】最上徳内の千島探検、得撫にいたる。								
1787	【サ】ラベールズ、現地探検に基づきアムール川河口沖合の島と北海道北方沖合の島（カラフト）が一体であるという説を提唱。								
1789	【千】南千島・道東でアイヌの対和人蜂起（クナシリ・メナシの戦い）。								
1809	【サ】間宮林蔵の第二次サハリン島沿岸探検、間宮海峡を渡り大陸へ。								
1848	【サ】ネヴェリスコイ、タタール（間宮）海峡の存在を実証し世界的認知。								
1855	【サ・千】日露和親条約、千島は得撫島以南が日本領、サハリンは国境未確定。	露		露					
1869	【道】北海道開拓使設置。								
1875	【サ・千】樺太千島交換条約、千島全島日本領に、サハリン全島ロシア領に。								
1899	【道】北海道旧土人保護法。								
1905	【サ】ポーツマス条約、サハリン島北緯 50 度線以南が日本領に。					日		日	
1920	【サ】尼港事件、北樺太保障占領開始。								
1925	【サ】日ソ基本条約、北樺太保障占領終了。								
1945	【サ・千】日ソ戦争（ソ連対日参戦）、ソ連による樺太・千島侵攻。 【道】連合国占領軍（米軍）進駐。					ソ		ソ	
1946	【サ・千】ソ連、南サハリン（樺太）・クリル（千島）領有宣言。								
1952	【サ・千】サンフランシスコ平和条約発効、日本が樺太・千島の領有権放棄。 【道】同条約による主権回復。								
1956	【千】日ソ共同宣言、平和条約締結後の歯舞・色丹返還が条文化。								

出典：桑原真人、川上淳『北海道の歴史がわかる本』（亜細亜社、2008 年）、石郷岡建、黒岩幸子『北方領土の基礎知識』（東洋書店新社、2016 年）、中山大将『歴史総合パートナーズ⑩ 国境は誰のためにある？：境界地域サハリン・樺太』（清水書院、2019 年）より筆者作成。「北」「南」の欄の国名略称は実効支配国を指す。

表2 樺太の戸籍・国籍・民族構成（1940年）

日本帝国臣民		先住民族	
内地人（日本人）	382,057	アイヌ	1,254
朝鮮人	16,056	オロクコ（ウイльта）	290
台湾人	1	ニクブン（ニヅフ）	71
外国人		キーリン（エヴェンキ）	25
満洲国人	3	サンダー（ウリチ）	18
中華民国人	105	ヤクーツ（サハ）	2
旧露国人（ロシア人）	160	総数	398,838
ポーランド人	46		
ドイツ人	4		

出典：中山大將『亜寒帯植民地樺太の移民社会形成：周縁的ナショナル・アイデンティティと植民地イデオロギー』（京都大学学術出版会、2014年、65頁）に筆者加筆。

表3 サハリン残留日本人・朝鮮人の人口推移の概要

1945年（緊急疎開開始前）		1949年（引揚完了後）		1988年（韓国永住帰国開始前）	
日本人（内地籍）	358,568	日本人（旧内地籍）	約 1,500	日本人（旧内地籍）	約 350
韓人（朝鮮籍）	23,498	韓人（旧朝鮮籍）	約 23,000	朝鮮人（ソ連籍）	約 32,000
先住民族	406	朝鮮北部労働者	約 26,000	朝鮮人（無国籍）	2,621
外国人	238	高麗人	約 2,000	朝鮮人（北朝鮮籍）	456
南サハリン総人口	382,713	サハリン州総人口	487,000	サハリン州総人口	717,400

注1）1940年の北サハリン人口は117,000人。1941～45年の正確な人口統計は未見。なお、「サハリン州」にはクリル（千島）列島も含まれている。

注2）「日本人」には、「アイヌ人」も含まれている。1949年、1988年の日本人人口が概数なのは、死亡者が不明の者がいるため。また、戦後生まれの者は含めていない。

注3）1988年の各「朝鮮人」は「民族籍」が「朝鮮民族」の者なので、「高麗人」全般、定住北朝鮮人・「日本人」の一部、そして戦後生まれの「朝鮮民族」も含まれている。

出典：中山大將「樺太移民社会の解体と変容：戦後サハリンをめぐる移動と運動から」『移民研究年報』（第18号、2012年、109頁）を筆者修正。

後、外国人立入禁止区域指定が解かれて自由な渡航が可能になり訪島する引揚者の方々が急増することが1980年代末から起きてきます。1965年以降、墓参の形で、毎年のように日本から元住民だった引揚者の方々が、サハリンを訪れるようになるという状況がありました。

樺太旧住民慰霊碑

「樺太旧住民」とは、ソ連樺太侵攻の起きる1945年8月以前に日本領樺太に住んでいた人々のことをまとめて言うために私が使っている言葉です。日本人、朝鮮人、先住民族などが、ここに含まれています。樺太には日本人慰霊碑はたくさんありますが、いまスクリーンには私が調べた限りを挙げています。代表的なものについて説明していきます。日本人慰霊碑は、「墓参碑」、「旧住民碑」、「日ソ戦関連碑」に分類できます。

墓参碑

1965年に日本人の樺太墓参が始まります。この時、すでに日本人墓地は撤去されていたので、何も無いところに墓参させるのはおかしいだろうということでソ連当局のほうで数箇所代替施設を造ってくれています。この時、現地の残留日本人も協力をしました。ソ連側は漢字がよくわかっていないので、残留日本人に手伝わせて、どんな碑を建てればよいか、どんな字を書けばよいか、

と尋ねています。その例として「日本人死没者合同慰霊碑」という碑銘を持つものがあります。もともとあった墓、ある一家のお墓を改装して、慰霊碑として造り変えているものもあります。

旧住民碑

「旧住民碑」として分類できるものは、冷戦末期、ソ連末期頃からでき始めている慰霊碑です。1985年の平和の船で、より多くの墓参者がやってくるようになります。1989年以降、日本人が入りやすくなり、故郷がどうなっているかを見に行きたい人たちがたくさんやってきます。そうすると、自分たちがそこに住んでいた名残が跡形も無くなっていますので、何かを残したい、墓参しようにもお墓が無くなっているからそれに代わるものを建てよう、という要望が出てきて、各地域の出身者が慰霊碑建立運動を起こしていきます。故郷喪失者、日ソ戦争によって故郷を失った人々である引揚者たちが自分たちの存在証明を、自分たちがそこにいたんだということを形に残したいということで「慰霊碑」の建立を行なっていきます。

日ソ戦関連碑

「日ソ戦関連碑」のひとつである「樺太・千島戦没者慰霊碑」は国が主導したものですが、1996年に建立されています。日ソ戦・抑留の慰霊と平和祈念ためのもので、碑文はロシア語でも併

記されています。日本政府とロシア連邦政府の両方がかかわっている公的なものです。「さきの大戦において樺太及び千島地域並びにその周辺海域で犠牲となった全ての人々を偲び平和への思いをこめてこの碑を建立する」、そうした碑文が書かれています。一見、平和的に見えるのですが、実際にはソ連側からすると、その一帯は戦跡であり、「英雄」を顕彰する施設なども付近に造られています。

先住民族関連慰霊碑

サチ（佐知）というところにある慰霊碑を例に挙げます。もともとは樺太出身のウイльтаという少数民族、先住民族出身で日本軍として戦ったものの、抑留されて北海道に帰ってきた方が造ったものです。趣旨としては、日本軍に従軍して抑留された方々が亡くなったので、その慰霊碑を建てたいということで建てられたものです。「先住民族戦没者慰霊碑」と碑銘が書かれています。「安らかに眠れ」という言葉が日本語とロシア語、朝鮮語、そして先住民族の言葉で書かれています。ただし朝鮮語の碑文については上敷香事件という日ソ戦で起きた日本人による朝鮮人虐殺事件について詳しく書かれています。

「平和」と「友好」

「旧住民碑」に分類される慰霊碑については樺太連盟の関係者

も加わったりしていますが、引揚者の出身地の村や同窓会単位で建立されています。「平和」とか「友好」という言葉が刻まれているのが一般的です。「平和」という言葉は、どこから出てきたのかと言うと、これは樺太の慰霊碑のオリジナルではなく、1980年以降の日本国厚生省の戦没者慰霊事業、海外慰霊碑建立の中で使われていた言葉で、それを参考にしたと思われます。

ただ、日本語碑銘とロシア語碑銘のずれが見られます。並川の慰霊碑では「慰霊碑」と漢字で縦書きに書かれています。そして、その右下に小さくロシア語の碑銘があります。そこではどんなことが書かれているかと言うと「日ロ両国民の友好の碑」と書かれています。「慰霊碑」という日本語碑銘とは意味が違うわけです。日本語では「慰霊碑」、ロシア語では「友好の碑」と書かれています。碑の意味がずれているわけです。日本側からすると「慰霊」を目的で造っていますが、ロシア側としては「日ロ友好」のために造ったものという認識になっているわけです。その意味では慰霊碑を造りたい日本人と、慰霊碑を建てるのに協力するロシア人の両方の歴史観がぶつからないようにした象徴的な例になると思います。

加害者、被害者を結ぶのが「友好」とか「平和」という言葉になるかと思います。その意味では「歴史の衝突の回避」といえるかと思います。「慰霊碑」というものは、単に歴史認識を表明するために造っているわけではありません。「歴史の衝突」を回避するために、そうした方策がとられているかと思います。

朝鮮人が建てた日本人慰霊碑もあります。ポロナイスク（敷香）

の二つの慰霊碑については朝鮮人の方々が日本人の同級生のために建ててくれたものなのです。

慰霊碑の読み換えと書き換え

ユジノサハリンスク（豊原）の「日本人死没者合同慰霊碑」が近年新しく造り変えられました。もともとこの地域の墓参のための代替物として建てられたはずですが、最近、造り直された時に「樺太で亡くなられた日本人を弔う慰霊碑を建立しました」と外務省設置の解説板にあるように、少し読み換えが起きていることが見られます。

「書き換え」の例も紹介します。もともとは「悲しみの丘」という名で、戦後、朝鮮人がサハリンから故郷へ帰れなかった「望郷の碑」として造られていた慰霊碑が、最近になって「日本軍国主義犠牲韓人碑」と名前が変わったりすることも起きています。

これらは、慰霊碑に刻まれた歴史、この慰霊碑は何のためのものであるかという歴史が、関係者の歴史観によって変えられることがあるという例になるかなと思います。

さいごに

慰霊碑が「語ること」として、戦争による故郷喪失者の自己証明、自己回復の試みが見えてくるかと思います。また、「境界」「国境」を挟んだ「歴史の衝突」の回避策の一つの例にもなるか

と思います。つまりお互いに被害者、加害者でぶつかってしまう国レベルの物語というのは、犠牲者としての日本人と、解放者としての、反ファシズム戦争に勝利した戦後のソ連の歴史との間でぶつかるわけですから、その「歴史の衝突」を民間レベルでどう解決するかが慰霊碑の碑銘、碑文から見えてくるかと思います。

「語らないこと」としては、慰霊碑がエスニックグループ、民族単位で建立されやすいために、建立のために機能していたはずのエスニックグループを越えた個人的な関係、あるいはその背景となる「語られなかったこと」の歴史が見えなくなっていくということが挙げられますし、もともと刻まれていた歴史の書き換えが起きていくということも言えるかと思います。

その意味では「個をめぐる＜生＞の物語」の重要性があるかと思います。「刻まれなかった歴史」を拾って整理することによって、国家の論理によって自己変性してしまった歴史を俯瞰的に見ることができるかと思います。慰霊碑は建てられた時と同じ目的のまま理解される、受け止められるわけではないので、それをどう気づかせるかが大事ではないかと思います。以上が、私からの報告として最後のまとめになるかと思います。どうもありがとうございました。

王 ご発表、ありがとうございました。慰霊碑というものは石碑などさまざまな媒体に刻まれていますが、固定的に変動しないものであると外側からは見えるのですが、今回は、その中で捨象されてしまった人間の関係性、あるいは外交関係の中で読み

替えられていく経緯が示されました。樺太の中に生きていた先住民の人たち、朝鮮人、またロシアの住民と樺太に住んでいた住民との人間関係が、場合によっては読み替えられたり、違う言葉で書き換えられたりすることを、今回、発表されたと思います。チャットでも質疑応答を承ります。会場からご質問はございませんか。事実関係について詳しくお話してほしいことがありましたらコメントをいただければと思います。

質問：「樺太旧住民慰霊碑」について、日ソ戦関連碑のひとつである「平和祈念碑」がソ連の英雄の墓地の中に建っていることの意味について。

中山 いまスクリーンでお見せしているのは、日ソ共同で造った日ソ戦の戦没者慰霊碑です。一見、日ソで戦争に和解しているんだなと見えるんですが、ソ連においては日ソ戦争は勝利した戦争ですから、いかにソ連が正しい戦争をしたか、ソ連を受け継ぐロシアが、いかに正当に、この土地を占拠して統治しているか、領有しているかをアピールするための国民教育のための場になっています。ですから、「平和祈念碑」だけを見ると平和のための場所に見えますが、その周りはプーチンが目指すような、ロシアのために死ぬロシア人を育てるための愛国教育の場にもなっています。

国境地帯の祈念碑は、ソ連が建てたもので、ソ連軍が国境地帯を日本から解放したということをアピールしています。激戦地で大勢の兵士が死んでいますので、スクリーンでお見せしている例のように国境地帯の道路沿いにはひとりひとりの慰霊碑

がたくさんあります。日本にとってあの戦争は負けた戦争で、戦争というものは反省すべきものであり、戦争関連の碑は「平和を祈るものである」という認識ですが、ロシアからすると、あの戦争は勝利した戦争であり、祝うべきもの、自分たちの正当性をアピールするためのもの、解放であるのだ、という根本的な歴史認識のずれが、見るとわかると思います。

王 私から一つ質問です。先住民の碑について。どういう関係性が先住民とあり、どういう形で慰霊碑をつくったか。多言語で書かれている経緯について。

中山 樺太の先住民族は日本国が保護すべき集団である、と戦前は認識されていました。本来、樺太アイヌを除く先住民族は戸籍に入っていないので徴兵対象ではなかったのですが、現地の日本軍が徴兵扱いで特務機関員などにしていてソ連に抑留された先住民族もたくさんいました。たくさんの方が亡くなっています。それでも抑留を生き延びた先住民族の人々の一部が、家族が日本人といっしょに北海道に引揚げことがわかったので家族に会いに北海道に行きます。そうした中に抑留先からサハリンではなく北海道へ渡ったゲンダーヌさんという人がいました。この方は網走で苦労して生活を送っていましたが、田中了さんという民衆史研究家の高校の先生がゲンダーヌさんに出会って話を聞きます。ゲンダーヌさんは肉体労働生活を送っておられたので自分で動くのは難しいことから、田中さんが手伝って、先住民慰霊碑をつくろうと現地のサハリンの先住民族の方とも連絡をとって、戦争で犠牲になった人々の慰霊碑をつ

くろうという動きを起こしました。樺太引揚者ではなく、田中了さんや先住民族問題に熱心な方々が中心にかかわりました。先住民族言語のほか現地の共通語であるロシア語や日本語で碑銘・碑文が書かれています。除幕式の写真を見ると朝鮮語の碑文は無く、後で加えられたようです。ただ、朝鮮人は先住民族ではないので、朝鮮語の碑文が加えられていることには疑問が残ります。もともと「サハリン先住民族戦没者慰霊碑」はソ連の弾に当たって亡くなった方々のためと言うよりも、ソ連の抑留で亡くなった方々のための慰霊碑だったものが、朝鮮人側の文脈としては「日本帝国主義の犠牲者」という枠組みに読み換えられながら慰霊碑が機能させられているのかなと思います。

王 チャットにも質問がきています。「日本軍国主義犠牲韓人」という表現は植民地支配の状況のもとと理解してよろしいですか？」。

中山 そうです。「日本軍国主義」という言い方は、戦時中だけでなく、1910年に日本が朝鮮を併合した時から「日本軍国主義」だというとらえ方で、この表現が使われているかと思います。瑞穂村朝鮮人虐殺事件などの特定の事件だけを指しているのではなく、樺太に朝鮮人が来たこと、それ自体が日本軍国主義のひどい行為だったと考えられているという理解でよろしいかと思います。

王 この点は後の討論でも触れたいと思います。先住民の文脈の中に多様な民族が入っていて、ソ連と日本との関係で当事者の人々が違う形で、語りと歴史認識をもっていることが慰霊碑の

中でも見られるという内容等について補足いただきました。中山さん、どうもありがとうございました。